

福岡県の木造木質化に関心ある建築士の皆さんへ

林業・木材産業関係者と共に

# 募集 森と木の繋ぎ手

を担ってもらえませんか

川上・川中・川下の3者連携による木材利用の新体制づくり

新協議会 Start-up Project

ワークショップ参加者募集

日時： 第1回 R3/11/16 (火)、13:00~17:30 予定

第2回 R3/12 中旬、

第3回 R4/1 月上旬、計3回

会場： 福岡パーキングビル9階コミュニティルーム「陽の森」

812-0024 福岡市博多区綱場町 1-17 (地下鉄呉服町駅6番出口前)

## ご案内

新協議会 Start-up Project を始動します。福岡県内の林業・木材産業を積極的に活かし、中大規模等木造建築物等、新たな木材利用を実現するための新体制づくりを行います。そのためには、川上（林業）・川中（木材産業）・川下（建築）の3者が一緒になって取り組むことが大切です。

今年度（令和3年度）は、計3回のワークショップを通じて、さまざまな意見を出し合い、新協議会のあり方を議論します。できれば、次年度（令和4年度）からは新協議会を発足させ、より具体的な取り組みをスタートさせたいと考えています。

これを機会に、皆さんが日々の業務の中で抱え続けている疑問や思いを、他の参加者へぜひ投げかけてください。ふるってご参加をお待ちしております。

## これまでの経緯

平成22年に公共建築物等木材利用促進法が施行されて、県内でも市町村の地域産木材を利用して公共建築物への木材利用（木造木質化）が行われるようになり、大型物件の木造木質化が主伐（建築用材等として販売するための伐採）を促し、山元へ利益還元をきっかけとなりました。平成28年には、福岡県森連・福岡県木連の協力を得て、関係者有志が集まって勉強会が始まり、福岡県産木材利用促進協議会として、建築士・市町村に向けた木材利用の普及啓発に取り組んできました。

近年では木造木質化が全国的に脚光を浴びるようになり、建築士だけではなく、一般消費者に向けて一層のアピールが求められています。林業と木材産業との間に建築士も仲間に迎え入れ、森や木材、木造建築の素晴らしさを一緒になって伝える、発展的な活動が必要になっています。

## ワークショップ参加を促す理由

我々、林業・木材産業関係者は、これから福岡で木造木質化に取り組む建築士の方々に「森と木の繋ぎ手」の役割を担ってほしいと考えています。

建築士の皆さんは各々思い描く理想の木造建築を求めて活動されていると思いますが、林業・木材産業も、林業の持続的かつ健全な発展、木材の適切な供給といった理想の姿を目指しています。これまで住宅産業に向けた産業基盤を培ってきましたが、長らく木材価格・自給率が低迷した時期が続いたせいで、人材不足・設備投資等、構造的な問題も抱えています。

そのためにも、林業や木材生産・加工、木材流通で働いている現場の生の声をぜひ聞いてほしいです。

木に精通した建築士には、デザイン性や建築計画上の要求にとどまらず、先の諸問題をピックアップして、解決に寄与する木材利用を一緒に考えてもらいたいと切望しています。

問合せ先：福岡県産木材利用促進協議会 秋山迄 090-4484-4353 / fw\_mail@industry.red



福岡県建築士会との懇談 2019/3/20



設計者向けバスツアーの様子 2017/11/25



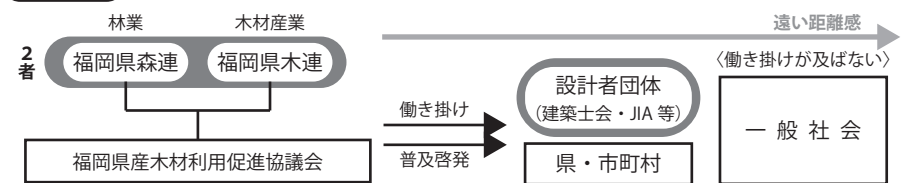
## 福岡県産木材利用促進協議会とは

福岡県森連と福岡県木連の連携で成り立つ協議会として、H30/11（前身となる勉強会はH28/12）から活動しています。

福岡県では、H24～H28にかけて、県内市町村での取組みで、自ら所有する森林から市町村産の木材を生産・供給（産直化）して、公共建築物の木造・木質化が行われ、林業・木材産業にとっても有効だと認識されるようになり、このような背景をもとに、活動を始めました。

県内に既存する生産体制やサプライチェーンを活かす方法を模索し、それらを設計者に普及啓発することが、当面の目的となり、設計者向けに座学と現場見学を同時開催するバスツアーや関係団体との懇談等を行ってきました。

現在



これからの木材利用推進の体制づくりを再考

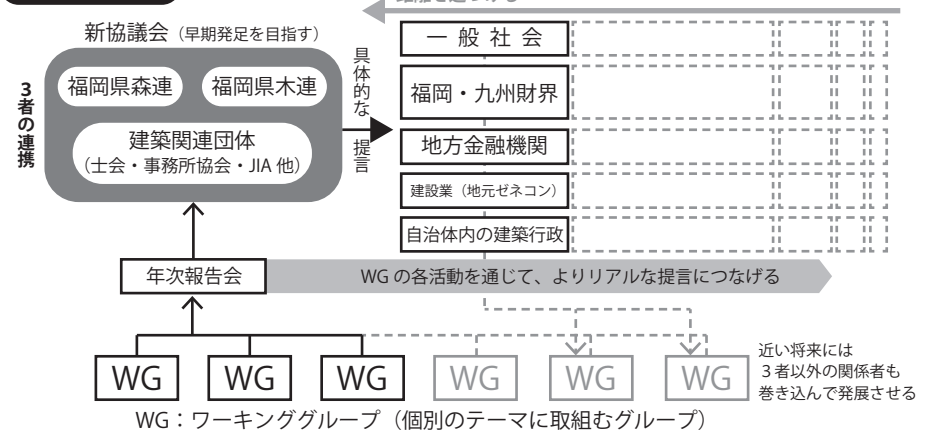
## ワークショップのテーマ

今回のテーマは、福岡県内の林業・木材産業を積極的に活かし、中大規模等木造建築物等、新たな木材利用を実現するための新体制づくりです。

右図は、福岡県での木材利用推進の体制を〈現在〉と〈構想案〉で表しています。図示している事柄は、あくまでアイデアの一つです。参加者の方々とこれからのあり方について、計3回のワークショップを通じて考えていきたいと思えます。

なお今回の取組みは、一般社団法人木を活かす建築推進協議会の「令和3年度民間部門主導の木造公共建築物等整備推進事業」の採択を受けました。全国で活躍されている方々のレクチャー・アドバイスをもらいます。

来年度以降～



福岡での木材利用推進のあり方・活動の姿をいっしょに考えましょう。

## 〈申し込み〉

〈氏名〉

〈所属〉

〈携帯電話〉

〈メール〉

〈送付先〉 福岡県産木材利用促進協議会事務局 FAX:092-566-8516 or fw\_mail@industry.red



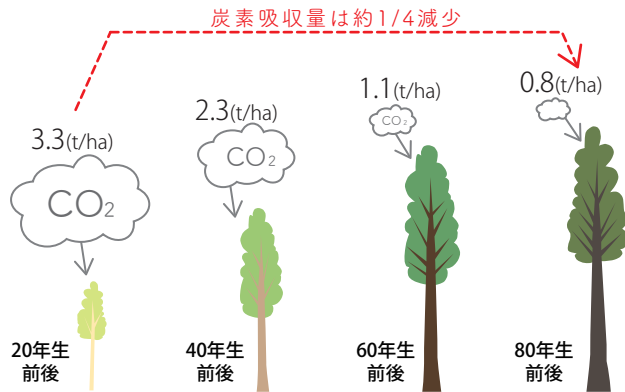
■ 道が狭くて森林から原木を出荷できない  
林内の作業は広くても、伐採地から出た最初に出くわす農道が狭くて、原木を持ち出せません。でも、一般社会で知ってる人はほぼ居ません。

## 林業の生の声を伝えてください。

建築士を始め、一般の人たちには、林産事業・森林整備・森林土木等といった、林業の具体的な仕事に全く馴染みがありません。

「森 = エコロジー」と漠然としたイメージしか伝わっておらず、人手不足であったり、農道の狭さが林業の障害になっていることは、露一つ知られていません。

原木価格の低迷、森林所有者との関係、大径木問題等々、林業の生の声を、森で働いている若手から、ぜひ届けてほしいです。



■ 若木と老木のCO<sub>2</sub>吸収量の違い  
高齢木はいつまでも脱炭素の担い手ではられない。

## 中大規模木造建築物は、原木の付加価値を上げる可能性を秘めています。

木造ビルや大型木造建築物は、木材の大量調達を必要とします。その一方で、強度や6m・8mの長尺材、大断面材等も求められるようになり、原木に付加価値を与えて販売するチャンスも生まれています。

もちろん、今日の林業の実情では量的供給は叶いませ

んが、付加価値のある原木を全く生産できないわけではありません。

今後、木造住宅が縮少していく中、建築士と膝を突き合わせて、原木の価値を上げる方策を少しずつ考えてほしいです。



■ 伐採予定地での立木の強度測定  
上質な原木を森林で事前に選べば、製材時の無駄を省き、付加価値をつけて販売することができるようになります。

■ 長尺材は山元に利益を還元する力を持っています。  
現状では大量に伐採できません。通常の製材工程でも困難ですが、立木測定の小さな手間が、木造ビルの需要拡大に繋がり、山元への利益還元に結びついています。

## 〈申し込み〉

〈氏名〉

〈所属〉

〈携帯電話〉

〈メール〉

〈送付先〉 福岡県産木材利用促進協議会事務局 FAX:092-566-8516 or fw\_mail@industry.red